

第1 健康づくり、社会参加の促進

1 健康寿命を延ばす取組

静岡県における2016年の健康寿命は、男性は72.63歳で全国6位、女性は75.37歳で全国13位でした。これまで公表された3回分の平均値では、男女ともに2位と健康寿命が全国トップクラスであることが分かりました。また、2017年3月現在、要介護（支援）認定率（1号被保険者）は、後期高齢化率が全国平均を若干超えているにもかかわらず、15.5%と全国で5番目に低くなっています。

一方で、脳卒中や糖尿病による死亡は全国平均を上回っていることから、今後、更に健康長寿県としての特性を維持、強化できるよう市町と連携して、住民主体の健康づくり、介護予防の取組を促進します。

また、社会健康医学の推進による科学的な知見から、体系的な健康施策の構築や効率的、効果的な健康づくり・介護予防の取組を支援し、健康寿命の更なる延伸を図ります。

(1) 健康づくり・介護予防の取組

【現状と課題】

- ▶直近のデータでは、静岡県の平均寿命は男性80.95歳、女性87.10歳、健康寿命は、男性72.63歳、女性75.37歳となっています。
- ▶平均寿命と健康寿命の差は、介護や看護を必要とする期間を意味しますが、男性が約9年、女性が約12年となっています。
- ▶2016年の国民生活基礎調査によると、介護が必要となった主な要因は、男性では脳卒中、認知症、高齢による衰弱の順に多く、女性では認知症、高齢による衰弱、骨折・転倒の順に多くなっています。
- ▶また、ロコモティブシンドローム、フレイル、誤嚥性肺炎、大腿骨頸部骨折、サルコペニア、足腰の痛み、骨粗しょう症、嚥下障害、低栄養などは高齢期に生じやすい疾患や健康上の問題です。（表2）
- ▶これらの疾患等は介護や看護が必要となる要因となりますので、健康寿命を延ばすためには、予防の取組を推進することが重要となります。
- ▶予防には、静岡県が従来から推奨している健康長寿の3要素「運動」「食生活」「社会参加」の実践が効果的ですが、2016年の県民健康基礎調査では、運動習慣（週2回以上、1回30分以上、1年以上継続）のある高齢者の割合は男性37.7%、女性31.4%にとどまっています。
- ▶運動については、住民が主体となって運営する介護予防の通いの場においても、体操など実施を促進していますが、2016年3月現在、体操を行っている通いの場は約4割弱にとどまっています。
- ▶介護予防の通いの場については、体操を行う場所を増やしていくことのほか、運営する住民ボランティアの確保・育成が課題となっています。
- ▶さらに、通いの場の活動が、理学療法士、作業療法士や栄養士、歯科衛生士など多様な職種の関与のもと、より効果的なものになるよう、専門職派遣などの支援が必要です。

<表2：各疾病等の説明>

疾患名	説明
ロコモティブ シンドローム (運動器症候群)	<ul style="list-style-type: none"> 運動器の障害のために移動機能の低下をきたしている状態 介護が必要となる原因のひとつ
フレイル (虚弱)	<ul style="list-style-type: none"> 健常と要介護状態との中間的な段階であり、生活機能障害をひきおこしたり、死亡などの転帰へとつながる恐れもある状態 身体機能問題のみならず、精神・心理的問題や社会的問題も含まれる包括的概念
誤嚥性肺炎	<ul style="list-style-type: none"> 摂食や嚥下の機能が低下している高齢者がなりやすい 誤嚥性肺炎を防ぐためには、口腔内の清潔維持や、肺炎にかかりにくい、かかっても治りやすい体力をつけることが必要
大腿骨頸部骨折	<ul style="list-style-type: none"> 骨密度が低下する「骨粗しょう症」のほか、BMIの低さ、喫煙、多量飲酒等が影響し、骨折しやすい 運動機能や筋力の低下により、転倒しやすくなる 予防として、食習慣の改善による骨粗しょう症の予防や運動などによる筋力の維持及び転倒予防が必要
サルコペニア (筋減弱症)	<ul style="list-style-type: none"> 加齢による筋肉量の低下をサルコペニアと呼ぶ サルコは筋肉、ペニアは減少を意味する 筋肉は鍛えることで、維持または増加することができるため、予防、改善のために重要なことは、バランスの良い食事、特にたんぱく質の摂取が減りすぎないように注意し、運動や生活の中で意識して体を動かすことが必要

【市町の施策の方向性】

- ▶ 住民に対し、特定健診、特定保健指導、がん検診の受診を促します。
- ▶ 地域ごとの健康課題を把握し、効果的な健康づくりの取組を推進します。
- ▶ ロコモティブシンドロームの予防を推進します。
- ▶ 介護予防の通いの場を運営する住民ボランティアを育成します。
- ▶ 住民主体の介護予防の通いの場を増やしていきます。

【県の施策・支援策の方向性】

- ▶ 健診の受診や介護予防活動の重要性について、県民の理解促進を図ります。
- ▶ 高齢期を健やかに過ごすため、健康長寿の3要素（「運動」「食生活」「社会参加」）の理解促進の一つとして“シニア版ふじ33プログラム”を普及します。
- ▶ 日常生活における歩行数を増加させるための工夫、加齢に伴うロコモティブシンドローム、転倒予防に関する正しい知識等を情報提供します。
- ▶ 8020推進員を養成し、活動を促進します。
- ▶ オーラルフレイル（口腔機能が低下した状態）について、県民の理解促進を図ります。
- ▶ リハビリテーション専門職団体、歯科医師会、栄養士会等と連携して、住民主体の通いの場への専門職の関わりを推進します。

【具体的な取組】

- ▶ 特定健診結果を分析し、地域ごとに健康課題を見える化することで、市町における特定保健指導の効果的な実施を支援します。
- ▶ ロコモティブシンドローム、転倒予防等に関する正しい情報を県ホームページや「すこやか大陸」等の情報誌を活用して県民に広く周知を行い、予防に取組む県民を増やします。
- ▶ 住民主体の通いの場における介護予防活動の好事例を紹介し、市町の施策推進を支援します。
- ▶ 市町と連携して、地域で健康づくり活動を推進するリーダーを育成します。
- ▶ 市町と連携して、健康長寿の3要素の実践方法を学ぶ教室を開催し、県民の健康増進、介護予防を図ります。
- ▶ シニア版ふじ33プログラムの教室を開催し、県民に対して健康長寿の3要素の実践を促進します。

【数値目標】

指標	現状値	目標値
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している県民の割合	39.3%	80%（2022年度）
日常生活における歩数の増加	65歳以上	65歳以上（2022年）
	男性 6,047歩 女性 5,077歩	男性 7,000歩 女性 6,000歩
「通いの場」設置数	2,003か所（2015年度）	2,640か所

(2) 疾病予防の取組

【現状と課題】

- ▶健康寿命の延伸には、健康づくりや介護予防とあわせて、死亡原因の多くの割合を占める4大疾病（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病）や高齢者にとって生命の重大な危機となる感染症（肺炎、結核）の予防、早期発見、早期治療が大切です。（表3）
- ▶4大疾病は、定期的ながん検診、特定健診、職場健診の受診によって、発症予防や早期発見・治療、重症化予防が可能です。2016年度生活意識調査では、自立高齢者のうち健康診断などを定期的に受けている割合は約3割にとどまっています。
- ▶また、脳卒中及び心血管疾患発症の最大の危険因子となる高血圧については、約4割が現在治療中または後遺症がある病気として回答しています。
- ▶口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防に効果的ですが、自立高齢者のうち歯や口の中を清潔に保つよう心がけている人の割合は約2割にとどまります。

<表3：65歳以上 死亡原因（5位まで）>

順位	疾患名	人数
1	悪性新生物（がん）	8,938人
2	心疾患(心血管疾患)	5,235人
3	老衰	3,874人
4	脳血管疾患(脳卒中)	3,464人
5	肺炎	3,080人

出典：2015年静岡県人口動態統計（死亡）

【施策の方向性】

- ▶がんの予防のためには、喫煙防止と受動喫煙防止が最も重要なため、青少年への喫煙防止教育、県民に対する喫煙の悪影響の啓発、受動喫煙防止対策を推進します。
- ▶がんを予防する生活習慣等として、節度のある飲酒、減塩、十分な野菜果物の摂取、運動習慣と適正体重の維持、肝炎ウイルス検査の受検を周知啓発します。
- ▶高血圧については、禁煙、適切な飲酒、減塩、運動習慣といった生活習慣改善の周知啓発や特定健診・特定保健指導による高血圧の発症予防、かかりつけ医への定期受診による高血圧症への降圧療法の徹底を推進します。
- ▶糖尿病発症予防に関しても、禁煙、適切な食事・飲酒、減塩、運動習慣といった生活習慣改善の周知啓発と特定健診受診による糖尿病予備群の発見と特定保健指導が重要であるため、これらを推進します。
- ▶高齢者の肺炎予防としては、適切な食事と十分な睡眠で免疫力を保つこと、インフルエンザの流行期等に人混みに行く際にはマスクを装着し、手洗いを励行すること、インフルエンザワクチンや成人用肺炎球菌ワクチンをかかりつけ医のもとで適切に接種することを周知徹底します。
- ▶また、口腔ケアの効果を啓発するとともに、かかりつけ歯科医のもとで適切な口腔ケアを受けることを推進していきます。
- ▶高齢者の結核の症状は、食欲と活動性の低下のみで発熱や咳が乏しいことも多いので、

食欲や元気が無い状態が2週間続く場合は、かかりつけ医に受診して、診察と胸部レントゲン撮影等の検査を受けることが早期診断・治療のために重要です。このことを周知するとともに、総合的な結核対策によって、県内の結核新規患者数の減少を目指します。

【具体的な取組】

- ▶ 世界禁煙デー（5月31日）、禁煙の日（毎月22日）を中心として、禁煙キャンペーンを実施し、喫煙が健康に及ぼす影響について正しい知識の提供、啓発活動を実施します。
- ▶ 健康経営の取組として喫煙対策を行う事業所等に対し、健康教育用教材（スモーカーライザー等）の貸し出しを積極的に行います。
- ▶ たばこをやめたい人に対して治療方法、禁煙治療ができる病院・診療所や禁煙支援ができる薬局等の情報を関係団体と協力して提供します。
- ▶ 受動喫煙の害について、パンフレット等を活用して啓発を行います。
- ▶ 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒防止について、必要な情報を提供します。
- ▶ 減塩行動の推進のため、減塩55プログラムを展開します。
- ▶ 県民の生活習慣病の予防に関する取組を推進するため、ふじ33プログラムや健康マイレージの普及を図ります。
- ▶ 口腔保健支援センターと連携し、口腔機能低下（オーラルフレイル）とその影響について、県民への啓発を行います。
- ▶ 高齢者施設等を対象に講習会やポスター配布などを通じて、インフルエンザなどの感染症予防対策に関する啓発を行います。

【数値目標】

指標	現状値	目標値
65歳以上の肺炎死亡率（人口10万人対）	302人（2015年）	250人（2025年）
特定健診受診率	52.9%（2015年度）	70.0%（2021年度）
特定保健指導実施率	18.5%（2015年度）	45.0%（2021年度）

(3) 科学的知見の導入

【現状と課題】

- ▶ 静岡県健康長寿を支える要因に関する分析など科学的視点が十分ではありません。
- ▶ 医療・健康データを分析する人材の育成が進められていません。
- ▶ 行政、病院・診療所、大学などが行う個別の取組を集約化・体系化する仕組みがありません。

【施策の方向性】

- ▶健康寿命の更なる延伸のために、県民の医療・健康に係る状況を科学的に分析します。
- ▶健康寿命の更なる延伸のために必要な手法や知識等を身につけた人材により、効果的な健康増進施策・疾病予防対策を推進します。
- ▶研究を長期的かつ継続的に推進し、人材を育成するため、拠点となる仕組みを構築します。
- ▶科学的知見に基づいた研究成果を効果的に県民に還元します。
- ▶社会健康医学に対する県民の理解を深めるための普及啓発を行います。
- ▶病院・診療所や教育・研究機関と連携し、社会健康医学に関する情報を統一的・効果的に国内外に向けて発信します。

【具体的な取組】

- ▶医療ビッグデータや疫学等の研究を推進します。
- ▶医療専門職、健康づくり実務者、研究者等の人材を育成します。
- ▶社会健康医学に関するシンポジウム等を定期的に開催します。

【数値目標】

指標	現状値	目標値
分析を行った県内の医療関係データ数	67.7万人分（2017年度）	<u>90万人分</u> （2021年度）

2 生きがいつくり活動・社会参加活動の促進

静岡県では、いくつになっても元気で活躍できる社会を目指して、2015年6月に新たな年齢区分である「ふじのくに型人生区分」を提唱しました。(表4)

これまで、65歳になると支えられる側の高齢者であると捉えられがちでしたが、「ふじのくに型人生区分」では76歳までは活躍盛りの壮年であり、これまで培った経験や知識を活かして元気に活躍する世代であると定義しました。

いくつになっても社会に参加することや、元気な高齢者が社会の担い手として活躍することは、県民一人ひとりの生きがいや豊かな人生につながるだけでなく、社会としても活力を維持していくことにつながります。

静岡県では、生きがいつくり活動や社会参加活動を推進し、この「ふじのくに型人生区分」の実現を目指します。

<表4：ふじのくに型人生区分>

疾患名		年齢区分	説明
老年	百寿者	100歳以上	白寿後(100歳)以上 茶寿(108歳)、皇寿(111歳)含む。
	長老	88-99歳	米寿(88歳)、卒寿(90歳)から白寿(99歳)まで
	中老	81-87歳	傘寿後から米寿前まで
	初老	77-80歳	喜寿(77歳)から傘寿(80歳)まで
壮年	壮年 ^{じぶくき} 熟期	66-76歳	経験を積み、様々なことに熟達し、社会で元気に活躍する世代(働き盛り)。 (健康寿命 男性72.63歳、女性75.37歳)
	壮年 ^{せいき} 盛期	56-65歳	
	壮年初期	46-55歳	
青年		18-45歳	社会的・生活的に成長・発展過程であり、活力みなぎる世代。 (農水省事業や地区商工会議所で45歳まで青年としている)
少年		6-17歳	小学校就学から選挙権を有するまでの者
幼年		0-5歳	命を授かり、人として発達・発育する世代

(1) 社会参加活動の促進

【現状と課題】

- ▶ 社会参加には、就労、ボランティア活動、地域活動、趣味活動など様々な形態があります。
- ▶ 静岡県が高齢者1.4万人についてアンケート及び追跡調査を行った「高齢者コホート調査」では、運動、食生活に加えて社会参加(地域活動)をしている人は、何もしていない人と比較して約50%死亡率が低下することがわかっています。
- ▶ また、生活意識調査によると、生きがいを感じる時として、自立高齢者のうち約5割が「友人や知人と過ごすとき」、約4割が「仕事をしているとき」を挙げており、社会参加は生きがいと密接に関係していることがわかります。
- ▶ 少子高齢化の進行により、社会の支え手が減少している中で、高齢者の支え手としての

社会参加が求められています。

- ▶特に、地域包括ケアシステムの実現にあつては、住民が主体となって地域における健康づくり活動や助け合い活動などを行うことが重要となっており、その担い手として、地域の元気な高齢者の社会参加が必要とされています。
- ▶一方で、地域においてボランティア、スポーツ、趣味、学習・教養のいずれかのグループに参加している人の割合は約5割にとどまっています。
- ▶また、老人クラブ（シニアクラブ）についても、地域包括ケアシステムの実現に向けては、健康づくりや生活支援、子育て支援など地域社会の担い手として期待されています。
- ▶静岡県老人クラブ連合会（シニアクラブ静岡県）は、県内最大の高齢者団体であり、孤立防止のためにひとり暮らしの高齢者を訪問する活動や健康づくり活動、趣味活動など、高齢者の多様な社会参加のニーズに対応できる活動母体ですが、会員数は2017年度現在約11万3千人で、10年前から約7万1千人減少しています。
- ▶今後、現在の多様な活動を継続するとともに、地域における生活支援の担い手として活動していくためには、会員の確保が課題となっております。

【施策の方向性】

- ▶ふじのくに型人生区分の普及を通じて、様々な社会参加活動を促進します。
- ▶シニアクラブ静岡県と協力して、地域における高齢者の多様な社会参加活動を支援します。
- ▶静岡県社会福祉協議会、静岡県ボランティア協会、静岡県自治会連合会、静岡県コミュニティづくり推進協議会等と連携して、高齢者の地域活動への参加を推進します。
- ▶高齢者の生きがいづくりや健康づくりの場としての役割を期待される「老人福祉センター」について、施設の円滑な運営等について支援します。

【具体的な取組】

- ▶ふじのくに型人生区分の“壮年熟期（66～76歳）”を対象とした社会参加促進事業を市町や関係団体と連携して推進します。
- ▶地域包括ケアシンポジウムの開催により、地域包括ケアシステムにおける住民主体の活動の重要性を広報し、高齢者の地域活動への参加を促進します。
- ▶市町や自治会等と連携して、シニアクラブの会員増強の活動を支援します。
- ▶シニアクラブの様々な社会参加・社会貢献活動を財政的に支援します。
- ▶地域活動を牽引するリーダーの養成講座や地域リーダーを対象とした研修会を開催します。

【数値目標】

指標	現状値	目標値
社会参加している高齢者の割合	48.5%	70%（2019年度）

【福祉サービス基盤の実績と目標】

区分	2016年度	2020年度
老人福祉センター施設数	47か所	47か所

(2) 生涯学習・生涯スポーツの推進

【現状と課題】

- ▶高齢者が健康で生きがいを持って自立して暮らしていくために、生涯学習・生涯スポーツの推進は重要です。
- ▶生活意識調査では、今後やってみたい活動として、3割を超える高齢者が健康づくりやスポーツ、約2割が学習や教養を高めるための学習を挙げています。
- ▶また、60歳以上の県民のスポーツ実施率（週1回以上）は年々上昇しており、2017年度現在78.8%となっています。
- ▶スポーツをする理由は、健康体力づくりのためが一番多く88.0%となっています。
- ▶一方で、スポーツをしない理由としては、病気やケガ、年齢などの身体的な理由が46.4%、始めるきっかけがないが19.2%となっています。
- ▶近年は、ユニカールやシャフルボードなど、子どもから高齢者まで参加できるニュースポーツも盛んになってきており、体力の有無によらず参加できる種目も増えていますが、認知度が低く普及が課題となっています。
- ▶すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会及びすこやか長寿祭美術展の参加者数は増加してきましたが、地域により参加者数に差があるため、全県的な参加者の拡大が課題です。

【施策の方向性】

- ▶運動やスポーツに親しみやすい環境づくりに取り組みます。
- ▶関係機関や市町、スポーツ推進委員、スポーツ団体等と連携し、スポーツ・レクリエーション活動を普及します。
- ▶子どもから高齢者まであらゆる世代でスポーツが楽しめるよう、多様なスポーツ種目の普及に取り組み、生涯スポーツの振興を図ります。
- ▶スポーツや文化活動を通じた健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり、多世代交流を促進します。
- ▶シニアクラブや高齢者の集いの場（サロン、居場所）等と連携し生涯学習を支援します。
- ▶公益財団法人しずおか健康長寿財団、市町、各競技団体と連携を強化し、高齢者スポーツの推進、文化活動の普及に取り組みます。

【具体的な取組】

- ▶スポーツ・レクリエーション活動を全県的な規模で実践する場を提供するため「県民スポーツ・レクリエーション祭」を実施します。
- ▶多くの県民が参加しやすいよう多種目を用意した「しずおかスポーツフェスティバル」を実施します。
- ▶スポーツや文化活動を通じた健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりを推進するため、公益財団法人しずおか健康長寿財団と連携し、すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会を開催します。
- ▶60歳以上を中心にあらゆる世代の人たちが楽しみ交流を深めるスポーツと文化の全国的な祭典である全国健康福祉祭（ねんりんピック）に静岡県選手団を派遣します。
- ▶シニアクラブによるグランド・ゴルフや輪投げなどの競技活動やノルディックウォークなどの活動を財政的に支援します。

- ▶シニアクラブによる寿大学の開催、文化クラブの運営などの生涯学習活動を財政的に支援します。

【数値目標】

指標	現状値	目標値
すこやか長寿祭・ねんりんピック参加者数	5,461人	5,800人
成人の週1回以上スポーツ実施率	53.9% (2017年度)	65% (2021年度)

すこやか長寿祭・全国健康福祉祭（ねんりんピック）

高齢者をはじめとする県民の生きがいづくりと健康づくりを推進し、明るく活力ある長寿社会の実現に寄与するため、しずおか健康長寿財団では、毎年、静岡県すこやか長寿祭として、60歳以上の方を対象とした「スポーツ・文化交流大会」、「美術展」を開催しています。

すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会は、卓球、テニス、グラウンド・ゴルフなどスポーツ競技と囲碁や将棋、健康マージャンなどの文化競技から構成されており、2018年度は34種目の競技が行われます。

また、すこやか長寿祭美術展は、日本画・洋画・書・彫刻・工芸・写真の6部門があり、2017年度は県内各地から出品された318点の作品が県立美術館県民ギャラリーに展示されました。

この両大会は、毎年開催される「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」の静岡県代表選手を選出する予選大会をかねており、平成29年度は169人の選手団を派遣、12作品が美術展に出品されました。



(3) 就労・起業の推進

【現状と課題】

- ▶ 少子高齢化の進行により、静岡県の労働力人口は減少が続き、2015年の国勢調査では、194万2千人と200万人を下回りました。
- ▶ そのうち、65歳以上の高齢者は26万人と労働力人口に占める割合は13.4%となっています。
- ▶ 2017年6月現在の「高齢者の雇用状況（静岡労働局）」によると、定年退職の制度廃止、65歳以上継続雇用制度などにより希望者全員65歳以上までの雇用を確保する企業（従業者31人以上規模）は79.3%と、65歳以上の方が働く環境は徐々に整ってきています。
- ▶ 少子高齢化により社会の生産力の低下が懸念される一方で、高齢者の就業や起業を推進することは、生産力を維持する上で重要となります。
- ▶ また、現在仕事をしている高齢者の約4割が「働けるうちは働きたい」と考えています。
- ▶ さらに、生活意識調査では、生きがいを感じているときとして男性の4割が仕事をしているときと回答するなど、高齢者の就労等の促進は社会の生産性を維持するだけでなく、高齢者の生活の質の維持・向上にもつながります。
- ▶ 一方、高齢になると体力や健康状態からこれまでと同様の働き方が難しくなる場合もあり、多様な働き方ができる環境整備を進めていく必要があります。
- ▶ 高齢者の意欲と能力を活かした活力ある地域づくりに寄与するために、高齢者に多様な就業機会を提供する組織としてシルバー人材センターがありますが、登録会員は減少傾向にあります。（表5）

<表5：シルバー人材センターの会員、就業延人員の推移>

区 分	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
会員数（人）	22,529	22,228	21,679	21,767	21,613
就業延人員（人日）	2,221,391	2,231,486	2,231,130	2,255,239	2,285,496

- ▶ シルバー人材センターは地域包括ケアシステムの実現に向けて、地域における生活支援などの活動が期待されており、24の市町で生活支援体制整備事業における協議体に参加しています。
- ▶ 今後、高齢者の多様な就労、地域における生活支援等の活動を推進するために、会員確保や就業延人員の増加などシルバー人材センターの活性化が重要となります。
- ▶ 地域包括ケアシステムの実現に向けては、地域住民が主体となって生活支援等の活動を担うことが重要ですが、その活動の安定的な継続のため、NPOや企業組合などの組織化が必要です。

【施策の方向性】

- ▶ ライフステージに応じて、いきいきと働くことができる職場づくりを進めます。
- ▶ 就労等を通じた高齢者の生きがいづくりを支援します。
- ▶ 経験豊富なシニア等の就業と県内企業の人材確保を支援します。
- ▶ シルバー人材センターの就業延人員の増加に取り組みます。
- ▶ 市町と連携してシルバー人材センターの生活支援等の活動を推進します。
- ▶ 市町や静岡県中小企業団体連合会と連携し、住民活動を行っている団体の組織化を支援します。
- ▶ 豊富なキャリアを持つシニア層などあらゆる人が、生きがいを持って活躍することができるよう、社会貢献活動への参加を促進します。

【具体的な取組】

- ▶ 一人ひとりの希望やライフスタイルに合った働き方が選択できるよう、企業にアドバイザーを派遣するなど、多様な働き方が選択できる制度の導入を支援します。
- ▶ 2016年12月に運用を開始した、「シニア等人材バンク」の周知に努め、利用を促進することで、就労希望のシニア層と県内企業のマッチングを図ります。
- ▶ シルバー人材センターの就業延人員増加を図るため、県内3か所に開拓員を配置し、小売業や福祉等の人手不足業界の企業を訪問することで、会員の就業機会の更なる確保と、人材確保の支援に取り組みます。
- ▶ 生活支援体制整備事業に関する研修等で、シルバー人材センターの活動事例を紹介します。
- ▶ ホームページ「ふじのくにNPO」で地域課題の解決に取り組むNPOの活動や協働の取組事例等を情報発信します。

【数値目標】

指標	現状値	目標値
シルバー人材センター就業延人員	2,285,496人	2,350,000人